

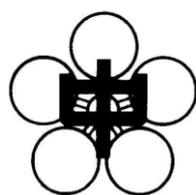
令和7年度 進路説明会（6月）資料



日時 令和7年 6月 13日（金）

13時30分 ～ 14時20分

会場 本校 体育館



板橋区立加賀中学校

1 高等学校の種類と内容

設置者別

- 都立……都内全域にあり、原則共学となります（学科により男女人数比に差があります）。
- 私立……各校独自の教育理念に基づいた教育が行われています。
男子校、女子校、男女別学の学校、男女共学の学校があります。
- 国立……都内には6校あり、入試日は都立高校よりも早くなります。

課程別

- 全日制…平日の朝登校して、午後まで授業を受ける。（修業年限3年）
- 定時制…ある一定の時間帯にまとめて授業を受ける。（修業年限3年以上、4年が多い）
夜間定時制だけではなく午前や午後の部も設けた単位制の「昼夜間定時制高校（都立高校の場合、普通科単位制・チャレンジスクール）」もあります。
- 通信制…普段は郵送される教材や放送を使って自宅で学習します。
レポート提出とスクーリング（期間を限定して学校で授業を受ける）で単位を認定して卒業します。

単位の取得方法別

- 学年制…学年によりそれぞれ取得しなければならない単位（授業）が決められています。
その学年に必要な単位が取れないと、進級できません。多くの高校は学年制です。
- 単位制…用意された科目の中から自分に応じた科目を選び、単位を積み上げていきます。
留年はありませんが、必要な単位数を取らないと卒業できません。
自分で時間割を作ります。

教育内容別

- 普通科…普通科目を教育します。コース制を設けているところもあります。
（語学、理数、福祉、情報、美術系など）
- 専門高校…普通科目の他に専門的な知識や技術を教育します。
（商業、工業、科学技術、農業、水産、家庭、芸術、保健体育、国際など）

2 入試制度（都立・私立）

（1）都立高校 …都内に在住で入学後も都内に在住する必要があります。

①都立推薦入試

ア 一般推薦

- ・ほとんどの都立高校で行われています。
- ・推薦入試の調査書点としては必修教科の「観点別学習状況の評価」（A・B・C）を点数化したものか、9教科の評定（素内申）のどちらかを使用します。
- ・第一志望の学校であること。つまり、必ず進学することを約束して出願するので、出願したら、必ず受検しなくてはなりません。また、合格したら入学を辞退できません。
- ・各校の「期待する生徒の姿」にある条件を満たし、生活・学習態度が推薦にふさわしいと中学校校長が認めた場合に出願できます。
- ・調査書、自己PRカード（点数化しない）、願書、中学校長の推薦書を提出します。
- ・入試では面接、集団討論、小論文または作文、実技検査などが行われます。

イ 文化・スポーツ等特別推薦

- ・学校の個性化・特色化を進めるため、特技・特徴をもった生徒を募集します。
- ・推薦の募集人員に「特別枠」を設け一般推薦とは異なる選抜方法によって入学者を選抜します。
- ・同じ高校の一般推薦も同時に受検できます。どちらかで合格したら辞退できません。
- ・小論文又は作文、実技検査をしない学校もあります。

②都立一般入試〔第一次募集（全日制・定時制）・分割前期募集・分割後期募集〕

- ・学力検査を行って選抜する最も一般的な入試です。
- ・調査書、自己PRカード、願書を提出します。
- ・一次募集・分割前期募集の高校では、原則5教科（国、数、英、社、理）受検です。（総合得点にスピーキングテスト（20点）の結果が足され合否が判断されます。）
- ・分割後期募集、二次募集の高校では、原則3教科（国、数、英）受検です。
- ・面接や作文、実技検査を実施する学校もあります。
- ・学力検査を行わない学校（チャレンジスクール・エンカレッジスクール）もあります。
- ・調査書、学力検査の点数配分は受検の時期や課程によって異なります。
- ・面接、小論文又は作文、実技検査をしない学校もあります。
- ・マークシート方式の解答用紙を全校で実施します。
- ・一部の教科を独自問題（グループ作成・自校作成）で実施する都立高校は、共通問題で実施する教科のみマークシート方式となります。

（2）私立高校 …他県でも受験可能となります。

①都立高校との違い

- ・設立者の考えに沿った特徴のある教育を行っている学校が多くあります。
- ・進学指導に重点をおく学校が多くあります。
- ・校風は概ね都立より厳しく、また、土曜日も授業を行う学校があります。
- ・費用は一般的に都立よりかかりますが、助成金制度により負担が減る傾向にあります。
- ・大学の付属校は、優先的に大学に進学できるという特徴があります。
- ・男子校・女子校がありますが、共学化が進んでいます。
- ・生徒・保護者向けの説明会に積極的に参加して学校を調べておくことが大切です。
- ・学校独自の奨学金制度や特待生制度などの優遇措置を設けている学校もあります。

②私立推薦入試

- ・第一志望の学校であること。つまり、必ず進学することを約束して出願するので、出願したら、必ず受験しなくてはなりません。合格したら入学を辞退できません。
- ・募集人員は、定員の50%程度です。
- ・高校より成績の基準等の条件が示され、中学校校長の推薦を受けて出願します。

推薦基準の例 ・ 3年2学期の素内申が9科で34以上、かつ1がないこと
 ・ 3年2学期の素内申が3科で10以上
 ・ 3年次の遅刻・欠席が5日以内であること をすべて満たすこと

- ・12月15日以降、中学校と高校の先生で行う「入試相談」で推薦受験できるかどうかを確認します。従って、12月上旬の面談では、受験の意思が決定していなければなりません。
- ・学校によっては自己推薦などの制度があります。事前の説明会や体験入学に出席することを出願の条件にしている学校もあります。

- ・調査書と面接・作文だけで合否を決める学校がほとんどでしたが、「適性検査」としてテストを行う学校が増えてきています。
- ・多くの場合、出願、入試、発表は都立より早く行われます。

③併願優遇入試

- ・第一志望が不合格だった場合、進学することを約束して受ける入試です。合格後は他校の二次募集は受けられません。
- ・第一志望は一般的に都立高校ですが、他の私立高校も第一志望に認める学校が増えていきます。
- ・高校より示される成績の基準等の条件は、推薦入試より高くなります。
- ・推薦入試と同様に12月15日以降、中学校と高校の先生で行う「入試相談」で受験について確認します。12月の面談では意思が決定していなければなりません。
- ・一般入試と同様の日程で一般受験の生徒とともに学力検査を受けます。（都外の私立高校は推薦受験と同じ日程の場合もあります。）
- ・都立学校合格発表まで入学手続きを待つ場合と待たない場合があります、延納願等の確認が必要です。

④私立一般入試

- ・学力試験を受けます。多くの学校は国、数、英の3教科です。
- ・学力試験を重視し、面接、作文（小論文）を加えている学校も多くあります。
- ・出願は1月25日以降、試験日2月10日以降、合格発表は入試当日や翌日が多い。
※埼玉県の私立高校は、東京都とは違う入試制度を取り入れているため、受験する場合は説明会、入試相談会に参加して直接情報を得ることが大切です。

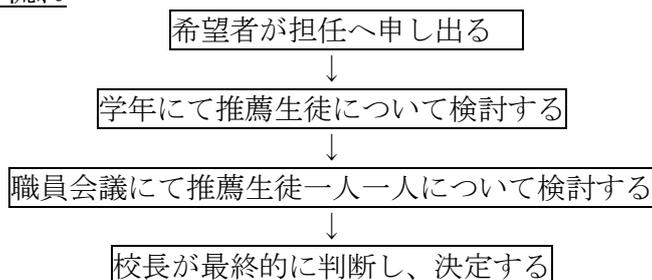
3 推薦で受験するには

推薦入試は学校間（中学校と高等学校等）の信頼関係で成り立っているため、中学校長が推薦受験を認めることが必要になります（自己推薦などを除く）。加賀中学校では、次のような判断の基準及び手順で、推薦する生徒を決定します。（「推薦に伴う進路指導方針について」参照）

推薦入試における校内推薦基準

- ① 学校の規則や社会のルール、マナーを守っている生徒
 - ② 授業をはじめ学校生活全般において真面目に責任をもって取り組んでいる生徒
 - ③ 欠席・遅刻・早退が少ない生徒
 - ④ 基礎的・基本的な学力を身に付け、学習意欲の高い生徒
 - ⑤ 推薦入試を希望する高校への志望動機が明確で、かつ入学後の目的意識が高い生徒
- ・推薦入試後から卒業まで①～⑤のことを継続できる生徒
 - ・高校入学後も加賀中卒業生としての誇りをもち、学業に専念し、努力し続けることができる生徒

（1）推薦者決定までの流れ



（2）推薦入試を受ける場合の注意

- ・都立推薦、私立推薦（第一志望）は、合格した場合は必ず進学することを条件に受験するので、合格したら入学を辞退できません。
- ・推薦受験により合格した後に、他の高校への受験は辞退することになります。
- ・合格後に問題行動を起こした場合は、高校側に報告する場合があります。

4 都立高校の紹介 ～多様なタイプの都立学校の紹介～

（1）特色ある教育活動を行う学校

①進学指導重点校

- ・難関国立大学や医学部への進学を目指して必要な学習に取り組む学校です。

日比谷・西・国立・八王子東・戸山・青山・立川

②進学指導特別推進校

- ・国公立大学や難関私立大学への進学を目指して必要な学習に取り組む学校です。

小山台・駒場・新宿・町田・国分寺・国際・小松川

③進学指導推進校

- ・国公立大学を中心とした大学への進学に対応した学習に取り組む学校です。

三田・豊多摩・竹早・北園・墨田川・城東・武蔵野北・小金井北・江北・江戸川・日野台・調布北・多摩科学技術・上野・昭和

④進学指導研究校…令和7年度は文京・向丘 など14校

⑤理数研究校…1年度単位で設定 令和6年度は新宿・竹早 など24校

⑥理数教育重点校

- ・大学等研究機関と連携し理数に秀でた能力の伸長を図る取り組みを積極的に行っている学校です。

武蔵・国立・白鷗

⑦チーム メディカル

- ・医学部への進学を希望する生徒同士でチームを作り希望の実現を目指す学校です。

戸山（平成28年度から）

他に「地域探究推進校」「Global Education Network 20」「英語教育推進校」「アクティブラーニング推進校」「知的探求イノベーター推進校」「ボランティア活動推進校」「地域連携リーディング校・地域密着型教育活動推進校」があります。

（2）一部専門高校・その他の学科 高校の一例

①総合学科高校

- ・国語や理科などの共通科目から情報や美術、国際関係や家政系などの専門学科まで自分の興味・関心や進路希望に応じて幅広く学べる学校です。

晴海総合・つばさ総合・杉並総合・若葉総合・青梅総合・葛飾総合・東久留米総合・世田谷総合・町田総合・王子総合

②単位制高校

- ・学年区別がなく、3年間（または4年間）で必修科目の他に自分に適した教科・科目を選択します。入学から卒業までに決められた単位数を修得すれば卒業できます。

新宿・国分寺・墨田川・飛鳥・板橋有徳・大泉桜・総合芸術・王子総合 など

③エンカレッジスクール（encourageは、「励ます」「力づける」という意味）

- ・小・中学校で十分力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援する学校です。1年次に30分授業や2人担任制を実施しています。学力検査によらない入試を実施します。

足立東・秋留台・練馬工科・蒲田・東村山・中野工科

④チャレンジスクール

- ・これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が自分の目標を見つけ、それに向かってチャレンジする学校。昼夜間の定時制で午前からも学べる三部制単位制総合学科の学校。

桐ヶ丘・世田谷泉・大江戸・六本木・稔ヶ丘・八王子拓真・小台橋

⑤昼夜間定時制高校

- ・自分のライフスタイルや学習ペースに合わせて、午前・午後・夜間の三つの部の中から選んで入学できる定時制課程・普通科（単位制）高校です。

一橋・浅草・荻窪・八王子拓真・新宿山吹・砂川

※新宿山吹と砂川は、併設通信課程との併修も可能

⑥進学型専門高校（ビジネスコミュニケーション科）

- ・ビジネスに関して必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得し、国際社会で活躍できるスペシャリストを育成するために大学等に進学し継続して学習することを前提とした新しいタイプの専門高校です。

千早・大田桜台

⑦工業（デュアルシステム）

- ・一定期間企業で職業訓練することで卒業後にも役立つ実践的な技術技能を身に付けるシステムをもつ学校です。（ ）の学校は希望生徒のみ

六郷工科・葛西工科・多摩工科・（北豊島工科・葛西工科・田無工科）

⑧家庭

- ・生活科学、保育・栄養、調理、食物、服飾など家庭に関する学科では生活産業に関わる栄養士や保育士、デザイナー等になるための知識や技術を身に付ける学校です。

赤羽北桜・忍岡・農業・瑞穂農芸

⑨中高一貫教育校

- ・ 6年間の中高一貫教育を一つの学校で行う「中等教育学校」、都立中学校と都立高校の2つの学校を接続する「併設型の中学校・高校」のタイプや連携型がある。

中等教育学校（高校募集なし） …小石川・桜修館・南多摩・立川国際・三鷹・併設型 …武蔵・富士・大泉・両国・白鷗
 ※併設型についても、令和8年度入試は募集の停止が続く見込みです。

5 その他の進路

(1) 高等専門学校

- ・ 5年間にわたり深く専門教育を行い、中堅技術者の育成をめざす学校です。
- ・ 修了後は短期大学卒業の資格が得られ、一般大学3年次への編入学制度もあります。

国立：東京工業高等専門学校（八王子市）
 都立：産業技術高等専門学校（荒川区・品川区）
 私立：サレジオ高等専門学校（町田市）

(2) サポート校

- ・ 高校卒業資格取得を目指す生徒が「通信制高校」と「サポート校」に同時に入学し、「通信制高校」に籍を置きながら、「サポート校」に通学して学校生活を送ります。
- ・ 通信制高校を3年間で卒業できるように、学習面・生活面での支援（サポート）をする民間の教育施設です。

(3) 専修学校

- ・ 美容・理容・調理・ビジネス・工業など、資格や技能を身につけるための学校です。
- ・ 学費は私立高校より高い傾向にあります。
- ・ 修学期間は学校によって異なります。
- ・ 修業年限3年以上の高等課程のうち、授業時数、履修科目等の要件を満たす、文部科学大臣が指定する課程を修了した場合、高等学校卒業者と同等に扱われます。

(4) 就職

- ・ 就職を希望する人は、ハローワークから送られてくる求人の一覧表を見て応募します。
- ・ 希望する企業が決まったら、ハローワークに応募書類を送り、就職試験（面接など）を受けます。
- ・ 縁故就職が決まった場合も、ハローワークを経由することになっています。
- ・ 選考が1月上旬にあるため、就職を希望する場合も、進学と同様に準備を進めることになります。

(5) 職業技術開発センター

- ・ 働くための資格や技能を得るための学校です。
- ・ 中学校や高等学校卒業後すぐの入校は少なく、失業中の人や転職希望の社会人が多いです。
- ・ 就学期間は半年から2年で、通学には学割も適用できます。
- ・ 入校の申込はハローワークを通して行います。また、訓練修了者には、ハローワークが積極的に就職を斡旋しています。

6 奨学金・補助金制度について

- ・上級学校進学にあたり、利用することができる制度です。助成金制度も充実しています。（例：板橋区奨学金制度、東京都育英資金、日本育英会、東京都私学財団 など）

7 学校説明会・学校見学会・公開授業・体験入学について

- ・受験希望者や、その保護者を対象としたものです。
- ・関心のある学校の説明会などへはできるだけ参加して、直接情報を得るようにしましょう。
- ・複数校が参加する合同説明会や進学フェアなども実施されています。
- ・私立高校では推薦入学の場合、体験入学などの参加を必須とする学校もあります。
- ・説明会と同時に個別相談会を実施する学校もあります。
- ・私立推薦入試受験の場合は説明会参加とは別途、個別相談会への保護者同伴の出席が必須となっています。

【参加方法について】

- ・関心のある学校についてはホームページ等で早めに確認しましょう。（インターネットでの説明会予約が多くなっています）
- ・学校を通しての申し込みの場合は早めに担任へ申し出てください。
- ・加賀中の標準服で参加してください。
- ・公共交通機関を利用してください。（自転車で行かない）
- ・友人に付き合っでの参加をしない。
- ・加賀中の土曜授業と日程が重なってしまうこともありますので、ご予約の際はご注意ください。

8 進路先決定に向けて

(1) 学校

- ・進路指導には加賀中学校の全教職員であたります。進路相談の窓口は学級担任になりますが、一人一人の生徒については、学年の教員を中心に全教職員で検討し、考えをまとめ、生徒や保護者との進路相談を進めていきます。
- ・毎日の学校での授業が一番大切です。毎日の積み重ねが学力の向上と充実につながります。学校では、全教職員が普通の授業で基礎・基本となる学力を身に付けられるように授業づくりをしています。生徒一人ひとりが授業規律を守り、授業を真面目に受けようとする気持ちと態度を大切にしましょう。

(2) 家庭

- ・進路先決定には生徒・保護者の考えが最も重要です。担任は各種の資料や観察の記録、学年で検討した結果をもとに相談に臨みます。しかし、志望先を最終的に決定するのは、やはり生徒と保護者の考えです。「なぜこの進路を選択したか」という志望動機が明確になるようにポイントを整理していきましょう。
- ・自分の目で見る、確かめる、体験することが大切です。ご存じのように、都立高校にも、私立高校にも推薦制度や一般入試制度がありますが、それぞれ基準や方法はさまざまです。学校では、個別に進路面談を行い、進路について家庭との連絡を密に取り合います。受験に関しては多くの情報が乱れ飛ぶことが予想されます。不確かな情報に左右されず、それぞれの立場で情報を正確に受けとめ、判断できるようにしていきましょう。また、志望先へ実際に訪問し、見て、確かめて、体験することが大切です。

(3) 中学校卒業後

- ・将来必要となる知識や技能を学べるか、就きたい職業との関係をよく考えましょう。
- ・自分の適性や能力を高めることができるか、自分の個性・適性をよく考えましょう。
- ・自分の学力との関係をよく考え、自分の学力を知り、自分の力に合った志望校を選びましょう。
- ・高校卒業後の進路（大学進学など）もイメージしながら考えましょう。

9 ご家庭で考えていただきたいこと

(1) 親子の話し合いを大切にしましょう

- ・子どもの考えを聞いた上で、親としての願いや家庭の事情をきちんと伝えましょう。
- ・子どもの良い点や適性を見つけ、励ましていきましょう。

(2) 本人の意思を尊重しましょう

- ・自分の意思で決めたということが、その後の生活への意欲につながります。
- ・本人と保護者双方が説明会や見学会に参加することが大切です。

(3) 正しい情報が得られるようにしていきましょう

- ・学校説明会や体験入学、学校見学会等にはできるだけ参加するようにしましょう。

(4) 学校との関係を密にしておきましょう

- ・配布されたプリント類は、よく確認しましょう。
- ・提出物の期限を必ず守りましょう。

(5) 家庭は安らぎの場で子どもとの会話を大切にしましょう

- ・気をつかいすぎるのは逆効果です（過干渉でもなく、放任でもない）。
- ・生活のリズムと食事に気を配りましょう。